

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>[menu000000200/hpg000000155.htm](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000200/hpg000000155.htm)

私にとっての「挨拶」と「礼儀」

氷見市小学校長会長

氷見市立比美乃江小学校校長 浦山 博

「進んで元気に挨拶をしましょう！」

これは、ことあるごとに私が子供たちに言い続けていることです。言うまでもなく挨拶は、互いの存在を認め合い人間関係を良好にするために重要な言葉や動作です。小学生にとって、学力を高めることや健康・安全に留意することと並んで大事にしなければならないことだと思っています。

挨拶や礼儀に関して、私には他の先生方とは少し違った思いがあるのかもしれませんが、それは、体育系の大学で学び、柔道が好きで、柔道の指導者を志して教員になったからだろうと思います。

私が学んできた柔道は、「礼に始まり、礼に終わる」と言われるように礼儀を重んじています。その点は、他の日本古来の武道と通じるところです。

柔道で礼儀を重んじるのは、相手がいないと成立しない対人競技であり、日々の練習で切磋琢磨し合う相手、あるいは試合で互いの力を出し合い真剣勝負をする相手がいて、はじめて自分自身を高めることができるという考えによるものです。また、道場へ入るときや出るときにも礼をします。それは、道場は技術や体力だけを身に付ける場所ではなく、練習を通して精神を学ぶ場所、つまり自分の内面を鍛える神聖な場所だからです。

また、道場では、先生や先輩から話を聞いたり練習をするときには、常に自分の立ち位置を考えなければなりません。それは、道場には「上座と下座」があり、先生や先輩が上座になるように後輩は位置しなければならないからです。

古い話になりますが、私が学生だった頃は100m先に先輩の姿があると、そこまで届くような大きな声と姿勢で挨拶をしました。それができないと、先輩から厳

しく指導を受けました。このような規律や教えが今の私をつくってくれたものと思っています。

私を育ててくれた環境は、今はもう古いと言われるかもしれませんが、私は柔道を通して学んだ挨拶や礼儀、目上の人に対する敬意の表し方などを、これまでずっと大事にしてきました。

さて、話を挨拶に戻します。挨拶が大切であることについては、子供たちはよく知っています。それではどうして挨拶が大切なのかを尋ねると、「挨拶をするとうれしいから」という答えが真っ先に返ってきます。逆に、なぜ挨拶ができないのかを尋ねると「恥ずかしいから」「面倒だから」というのが主な理由のようです。

子供たちが、恥ずかしがらず、面倒がらずに挨拶ができるようにするにはどうすればよいのでしょうか。私は、環境が大事だと思っています。「おはよう」「おやすみなさい」「行きます」「ただいま」といった基本的な挨拶を自然に交わす家庭の環境や、みんなが普通に大きな声で挨拶を交わす学校の環境、更には登下校の際に安全パトロール隊など地域の方と元気に挨拶を交わす環境があれば、子供たちはおのずと挨拶ができるようになり、挨拶しないことの方が恥ずかしいと感じるようになるのではないかと思います。

挨拶とは、相手とのよい関係を築いていくための潤滑油のようなものであり、人として身に付けるべき最も基本的な礼儀作法だとも言われています。

教員の世代交代が進み、氷見市内の小中学校ではどんどん若い先生が増えています。時代が変わっても、挨拶や礼儀の大切さを子供たちに教えることを後回しにしない学校・家庭・地域であってほしいと願っています。

平成 27 年度 調査研究事業報告

チーム支援推進委員会

支援をつなぐ 仲間をつなぐ Part2 ～やってみよう、チームによる支援～ 海峰小学校 教頭 光安 淳子

「チームとしての学校」を実現するための視点の一つに、「専門性に基づくチームによる支援体制の構築」があること、また、「これからの時代の教員に求められる資質能力」の一つに、「多様な専門性をもつ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力」があると、昨年12月の中央教育審議会の答申にありました。今まさに、チームをどう構築するかが問われています。

本委員会では、「支援をつなぐ 仲間をつなぐ」リーフレットの第2弾を作成しました。私たちは、「困った」「どうしよう」と感じたときに、誰かに相談することがチームによる支援の第一歩であると捉え、誰もがコーディネーターの役割を果たすことができると考えました。そして、学校で起こりうる様々な状況を想定し、必要に応じたチームによる支援の在り方はどうあればよいのか、ステップを整理して掲載しました。昨年のリーフレットと併せてご活用いただければ幸いです。



学力向上推進委員会

チーム氷見で「授業づくりノート」の活用を 久目小学校 教頭 金原 礼子

学力向上推進委員会では、実践を通して、子供たちに確かな力を身に付けさせるための学力向上はどうあるべきかを研究の中核に据えて取り組みました。「全国学テ分析の知見を生かした授業実践」「自主研修会の企画、運営」「学力向上に関する実践事例の発信」から見えてきたのは、次の2点です。

○学習意欲を高め、学ぶ喜びを味わうことのできる学習を保障する。

○「学び方」の改善や個のニーズに対応した学習環境を整える。

そこで、次期学習指導要領改訂で求める「育成すべき資質・能力」を踏まえ、「学級づくり」「心づくり」「授業づくり」の三つの観点から実践事例をまとめ、「授業づくりノート（ファイル形式約100ページ）」を作成しました。このノートは、「分かる・できる授業」を目指して実践し、さらに改善を加えたものです。 <授業例—本文より引用> 日々の実践に課題が見えたとき、この「授業づくりノート」を開いてみてください。また、参考にされ、新たな実践を加えながら「マイ授業ノート」へとバージョンアップして下さることを願っています。



ふるさと学習資料作成委員会

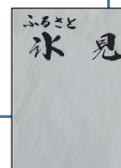
フルモデルチェンジ「ふるさと氷見」

西部中学校 教頭 荒屋 誠

ふるさと学習資料作成委員会では、これまでの小学生対象の「わたしたちの氷見市」、中学生対象の「ふるさと教育資料ひみ」を統合して、新たに「ふるさと氷見」を作成しました。フルモデルチェンジした「ふるさと氷見」の改訂ポイントは以下の通りです。

- ①サイズをこれまでのB5からA4とし、使用対象を小学校3年生から中学校1年生としました。
- ②小学校部分は、中学年社会科の教科書の目次と合わせて、より使いやすくしました。
- ③写真、統計資料を新しくするとともに、郷土の人物の部分をより豊かに充実させました。
- ④キットちゃんの投げかけ文や書き込みができるスペースを設け、子供たちのアクティブ・ラーニングを目指しました。
- ⑤中学校の内容を1年生での活用に絞り掲載しました。

今後、動画や静止画をデジタルコンテンツとして整理し、必要に応じて活用できるようにします。社会科や総合的な学習の時間、道徳などで、ぜひ活用してください。



平成 27 年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校の部 13 編、中学校の部 6 編の個人やグループからの応募がありました。

小中校長会の協力を得て、小学校の部と中学校の部に分けて審査しました。広い視野で適正かつ公正な審査を行い、小中学校それぞれの部門で最優秀賞、優秀賞が選出されました。審査結果は下記のとおりでした。



[表彰式の様子]

<小学校の部>

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	海峰小学校	研究グループ	自ら考え、関わり合い、学びがいを実感できる授業づくりを目指して
優秀賞	窪小学校	金森 佑美	友達と関わりながら意欲的に書こうとする子供の育成
優秀賞	十二町小学校	中田 里美	自己肯定感を高め、自分を表現しながら人と関わり続けようとする I 児を目指して
優良賞	朝日丘小学校	ICT 研究推進部	子供たちの学びを深める ICT 活用の在り方
優良賞	比美乃江小学校	椿原未来子	友達を大切にし、仲間と共に自分の力をぐんぐん伸ばす子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	井上 真孝	互いを認め合い、共に高まる学級づくりを目指して
優良賞	宮田小学校	浅川 晴香	豊に関わりながら「音楽のよさ」を感じ取り、主体的に表現していく子供の育成
優良賞	窪小学校	濱田 雄弘	どの子も運動を楽しむためのアプローチ
優良賞	湖南小学校	小嶋 永治	望ましい集団活動を通して、主体的・協働的に探求し、よりよい生活や人間関係を築こうとする子供の育成をめざして
優良賞	上庄小学校	杉本侑里恵	共に学び合いながら考えを深める子供の育成
優良賞	明和小学校	中村 明恵	自分のよさに気付き、主体的に学ぶ子供の育成を目指して
優良賞	久目小学校	森谷 純子	自分の力で物語を読み取ることができる子供を目指して
優良賞	灘浦小学校	村田 萌子	健康で安全な生活を主体的に実践していく子供の育成を目指して

<中学校の部>

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	北部中学校	田中 裕子	生徒が「できた」と実感できるための指導はどうあればよいか
優秀賞	十三中学校	柳澤 拓哉	自ら考え、共に高め合い、主体的に活動する生徒の育成
優良賞	南部中学校	林岸 正美	健康で安全な生活を送るための自己決定力と実践的な態度を育てるための指導の工夫
優良賞	西部中学校	堀田 俊宏	生涯にわたって運動に親しむ生徒の育成を目指して
優良賞	灘浦中学校	大野 裕子	確かな学力の向上と考える面白さを感じさせる授業づくり
優良賞	西條中学校	青木めぐみ	運動習慣がない中学校女子生徒の体力向上を目指して



以上の審査結果を基に、去る 2 月 9 日（火）に教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。山本教育長からの授賞後、西部教育事務所主任指導主事佐野正人先生より講評をいただきました。最後に、最優秀賞受賞者の海峰小学校研究グループ（代表谷本浩美教諭）と北部中学校田中裕子教諭から教育実践についての発表がありました。詳細については、当センター発行の「平成 27 年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

この一年を原点として



朝日丘小学校 滝本 浩希

この一年間は、日々の授業、様々な行事の中で、子供たちの成長を間近で見ることができた。私は、子供たちが真剣な表情で頑張っている姿が好きである。失敗しても、間違えても、何度も挑戦する子供たちの一番の理解者・応援者となって、これからも子供たちと一緒に成長していきたい。

子供の笑顔と成長のために



比美乃江小学校 田中 志麻

一緒に遊んだとき、「分かった」と応えてくれたとき、友達と活動しているとき、一年間でたくさん子供の笑顔を見ることができた。子供の笑顔に毎日元気をもらい、子供たちと共に歩むことができたことに気付いた。これからも、子供の笑顔と成長のために精進していきたい。

子供と共に



宮田小学校 亀谷 恵子

低学年の担任としての一年は、楽しく、また驚きの連続であった。笑顔、泣き顔、怒り顔と、その時々表情を変える子供たちと毎日過ごし、元気をもらいながら日々成長できることは、本当に幸せである。子供たちの笑顔が少しでも増えるように、今後も学び続けていきたい。

子供と共に歩んだ一年間



窪小学校 伏江寿々花

「先生、いつもありがとう。」
不意に、子供からかけられた言葉だった。一年間、様々なことに悩んだけれど、そのときにいつも、ヒントや元気を与えてくれたのは、子供たちだった。これからも、子供たちと毎日、笑顔で過ごせるよう力を尽くしていきたい。

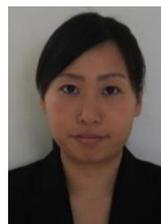
「いっしょ」に伸びる



十二町小学校 矢後 祐樹

「いっしょに伸びる子」は、力を合わせて成長してほしいという思いを含めた学級目標である。この一年、子供たちと共に笑い、考え、悩みながら過ごしてきた。振り返ると、自分も「いっしょ」に成長してきたことに気付いた。これからも子供たちに寄り添い、教師として伸びていきたい。

子供たちの笑顔のために



明和小学校 中村 明恵

何事にも前向きに取り組む子供たちに出会い、「夢と希望をもち、本気で挑戦しよう」を合い言葉に、日々の実践を行ってきた。その中で、子供の姿や自分自身の失敗から学ぶことが多かった。「どのような力を付けるか」を大切に、子供と本気で向き合い、やる気を引き出せる教師を目指し、自己研鑽をしていきたい。

共に挑戦する喜びを感じた一年間



灘浦小学校 竹岸 綾希

子供たちと共に、目的に向かって挑戦した一年間だった。学校行事や学級活動等が、よりよくなるようにアイデアを出し、仲間と声をかけ合って協力しながら、意欲的に取り組む子供たちの姿に日々の成長を感じ、私自身も挑戦することの大切さを学んだ。

感動の共有



北部中学校 寺西 良太

音楽科教諭として着任し、合唱コンクールや音楽会等の大きな行事を経験させていただいた。うまくいかないことも多くあったが、やりきった生徒の顔を見た時の感動は、何ものにも代え難いものだった。これからも、多くの感動を生徒と共有していきたい。

生徒の目線を大切に



西條中学校 三崎 篤志

私は、この一年で、生徒のたくさんの成長を見ることができた。喜びを感じるとともに、教師としてのやりがいを感じた。今後も、生徒の目線を大切に、自己研鑽を積み、生徒と共に成長していきたい。そして、今以上に、生徒の「できた」という喜びを共有していきたい。

